

【京都府青少年育成協会会長奨励賞】

「『普通』を分かち合う力」

京都府立園部高等学校附属中学校1年
今 面 南ノ葉



「普通」とは何だろう。色々な人にそう聞いてみると、「周りと同じこと。」「当たり前であること。」「変わっていないこと。」と言っていました。辞書で調べてみても、「他のものや人と比べて、変わっていないこと。珍しいこと。」と、似たようなことが書いてありました。では、それはどのような立場からして言えることなのでしょう。人によってももの捉えようは違い、同じものでも人それぞれ普通の基準は違うのではないのでしょうか。

授業中、先生がこんなことを教えてくださいました。それは「男らしい」という言葉をあまり使ってはいけなくなってきた。ということです。男性は男性のような服装で、口調で、性格でいいといけない。そのような考え方をしてしまうことに間違いがあり、男性は男性のように生きていけなくはないのではなく、自分が自分らしく、もっと自分の「普通」いわば、個性をだしていかないといけない。それが段々とこの世の中の普通になろうとしているということです。このような考えは案外誰もが思っているのかもしれませんが、世の中では普通になろうとしていても、全員がそう思っている訳ではありません。やはり男性が女性のような口調で話したり、女性が男性のような服装をしたり、昔から決めつけられてしまった普通とは少し異なると、何故か、可笑しいと思ってしまうのです。このような皆が勝手に思っている、「普通」で、自分の個性を出し切れない人がいるのかもしれませんが。実際に男性の先生は私達に、女性のような口調で話してくださいました。その瞬間クラスの皆、私も含めほとんどの人がその口調について笑っていました。先生は私達に、何故笑ったのか聞いてみると、クラスの人達からは、「違和感がある。」や、「普通とは違う」などの意見が出ました。私もその口調について違和感を感じていました。しかし、その人にとっての可笑しいが、別の人にとっての普通だったらどうだろう。何故自分の普通が笑われているのかと、ある意味違和感を感じるのではないだろうか。自分の考え方を全員が持っているように思っては駄目だ。そんなことを、先生は教えてくださいました。

そして、「普通とは何なのか。」色々な人に聞いてみると、こんな意見がありました。それは、「多数派であること。」というものです。確かに、普通とは違う。と思われてしまうのは、周りから見ても少数派であり、孤立しているからです。このように、普通と多数派が同じような意味として繋げられるのは、私達人間の心理が関係しているからなのです。ある学者の実験から、人間は、自分の意見とは異なる、反対の意見が多かった場合、たとえ、それが自分の意見とは違ってもすぐにそちらの方に意見を変えてしまう、「同調」という現象を起こすということが分かりました。さらには、たとえ自分の考え方と違う考えを持っている人が一人だったとしても、目上の人や、逆らいにくい人の場合にもすぐに同調してしまうのです。このような現象から、自然と誰かの普通がどんどん多数派になっていってしまい、皆が思う、普通の考えを持った人でいなければならないと勘違いしてしまうのです。

しかし、たとえ、誰かの意見などが、自分が思っている普通の考えと違ったり、少数派の意見だったりしても、私達には、誰一人として、その考えを笑い、軽蔑する権利は持っていませんし、そのような立場でもありません。日常の中でも、沢山の「普通」の違いがあります。それを、お互い普通だと思っていますが、立場が変わると、その普通も理解されにくいものなのかもしれません。必ず、その「普通」が、全員共通で思っていることとは限らないのです。

では、理解されにくいことを、どうすれば理解してもらえるのでしょうか。きっと、重要なのは、理解する方、話の受け手側です。普通とは違うため、その内容を駄目な方へ掘り下げていたり、自分の「普通」を押しつけたりするのではなく、それをお互いに良い方向へと掘り下げ、それに対する興味を示す。そうすると、内容が飲み込みやすくなるのではないのでしょうか。そして、そこで初めて、違いを理解することへの第一歩となるのです。皆、違うのだから、「普通」も違うことは当たり前、だからこそ、皆の普通を知り、分かち合うことが、自分の成長につながり、生きていく中で、最も大切なことなのではないのでしょうか。